

加曽利貝塚と新博物館をつなぐ ルート開発に関するワークショップ

第 2 回ワークショップ
2月18日（土）



1. 開会



2. 挨拶



本日の議事次第

- 1. 開会
- 2. 挨拶
- 3. ワークショップの開催目的（おさらい）
- 4. ルート案の説明および事例紹介
- 5. グループワーク／新設ルートの設定・
工夫点に対する意見交換
- 6. まとめ
- 7. 今後のスケジュールの案内
- 8. 閉会

本日のテーマ

ルート案の追加ご説明および事例紹介



新設ルートの設え・工夫点に対する意見交換



歩道橋および園路設計への反映（次年度）

3. ワークショップの開催目的 (おさらい)



ワークショップの開催目的（おさらい）

①利用者ニーズを反映した利便性の高い計画を目指して

（利用者の目線）

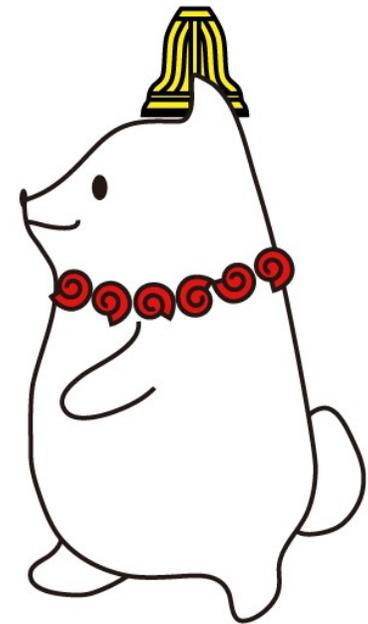
- ・ エリアの回遊性を高めるルート（連絡歩道橋）のあり方について、意見を伺い計画へ反映

②地域で愛され続ける加曽利貝塚を目指して

（地域住民の目線）

- ・ 憩いの場として親しまれている坂月川と調和したルート（連絡歩道橋）のあり方について、意見を伺い計画に反映

4. ルート案の説明および 事例紹介



ルート案について（前回のおさらい）

計画概要

■新規ルート検討案／小規模橋梁

周遊路から河川管理用
通路（散策路利用）を
経由し、両岸を結ぶ案

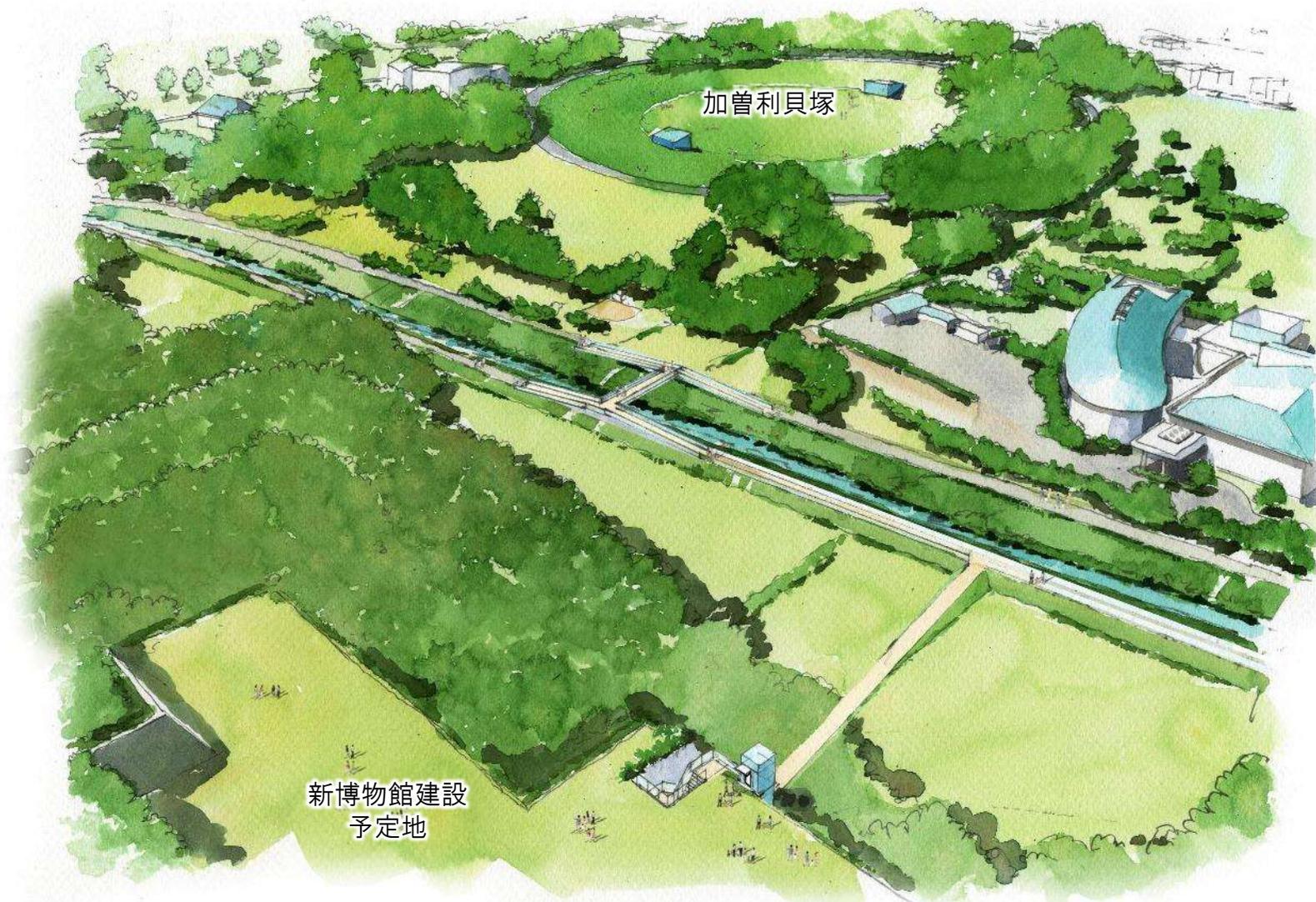
新博物館建設予定地付近
からエレベーター又は
階段を整備する



ルート案について（前回のおさらい）

検討案概要

新規ルート検討案／小規模橋梁



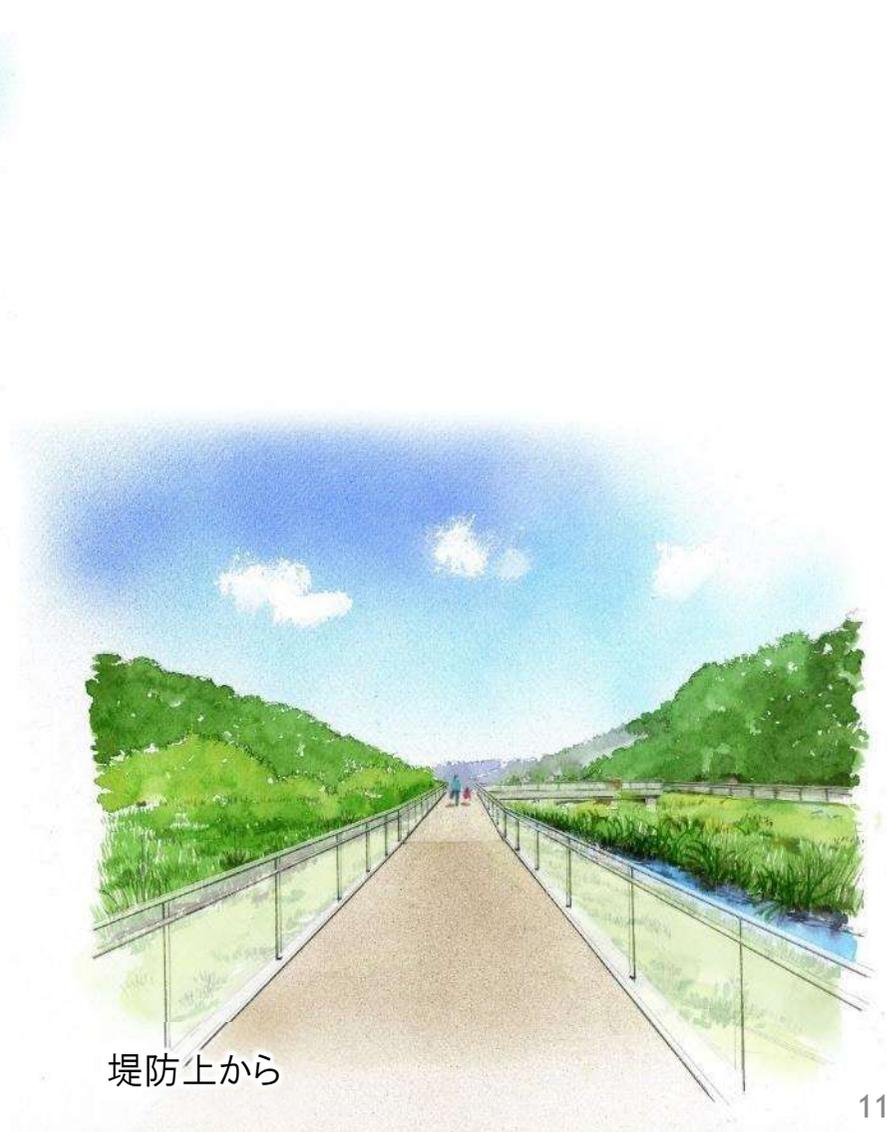
ルート案について（前回のおさらい）

検討案概要

新規ルート検討案／小規模橋梁



新博物館敷地から



堤防上から

前回ワークショップでいただいたご意見

10/29(土)に開催したワークショップでいただいたご意見を整理し、大きく下記4点にまとめました。

・ 景観を邪魔しない橋が良い

景観との調和

・ 雨天時の安全性や浸水に対する対応

安全性の確保
(浸水)

・ 団体利用への対応が必要

・ 見学ルートをワンスルーに

団体見学客の
受け入れ

・ 橋が小さくなると遊歩道が長くなり、移動の時には退屈しない工夫が必要

・ 高齢者や子どもが回遊するには歩行距離が長い

・ 小規模橋梁案には賛成、しかし移動の面に検討が必要

・ 景色を見るためのベンチの設置

新博物館から
史跡までの
動線が長い

前回ワークショップでいただいたご意見

第1回ワークショップでいただいたご意見に対して、対応方針や対応内容を整理いたしました。

ご指摘事項	対応
1. 景観との調和	• 景観上大切にしたい視点について、本日のワークで意見交換を行い、今後の歩道橋及び園路の設計にいかしていきます。
2. 安全性の確保 (浸水)	• 過去の浸水履歴や河川の対策状況を確認し、園路部分の浸水対策を検討しました。
3. 団体見学客の 受け入れ	• 団体客受け入れ時の具体的な見学ルート（モデルコース）を検討しました。
4. 新博物館から 史跡までの動線 が長い	• 散策が楽しくなる工夫として、案内サイン・移動サポートの事例等を収集・整理しました。

1. 景観との調和

景観に配慮した歩道橋や園路の整備事例等を収集・整理し、景観上大切にしたい視点について、本日のワークショップでご意見をいただき、設計に反映していきます。

整備事例のご紹介／自然景観と調和した歩道橋の事例

滝美橋（静岡県富士宮市）

- 多数の観光客に利用されるため、滝の眺め等に配慮して橋の架け替えを行い、展望場や歩行者動線を一体的に整備。
- 回遊性を持たせて視点の位置を変化させ、多彩な場所から滝を見て楽しむことができる。



写真出典：土木学会デザイン賞2016ホームページより／<http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/566>

1. 景観との調和

整備事例のご紹介／景観及び史跡に配慮した歩道橋

出島表門橋（長崎県長崎市）

- 遠くから見た際は歴史的背景に溶け込みつつ、近くから見た際には現代の橋であることがわかる特徴的な橋。
- 当時橋があった場所に新たな橋「表門橋」を架けることによって、出島とその周辺が一体となり、長崎のまち全体の魅力をさらに高めることを目指す。



写真出典／グッドデザイン賞2018ホームページより
／<https://www.g-mark.org/award/describe/47581>

2.安全性の確保（浸水対応）

河川整備は、10年に一度
起こり得る降雨で氾濫し
ない計画としています

（1時間あたり52.5mm（整備計
画規模1/10）の降雨に対応する
整備）。

一方、ハザードマップの
浸水想定は50年に一度起
こりうる降雨で河川が氾
濫した場合を想定してい
ます。



図出典：千葉市ハザードマップ（風水害）/50年に1度の洪水を想定

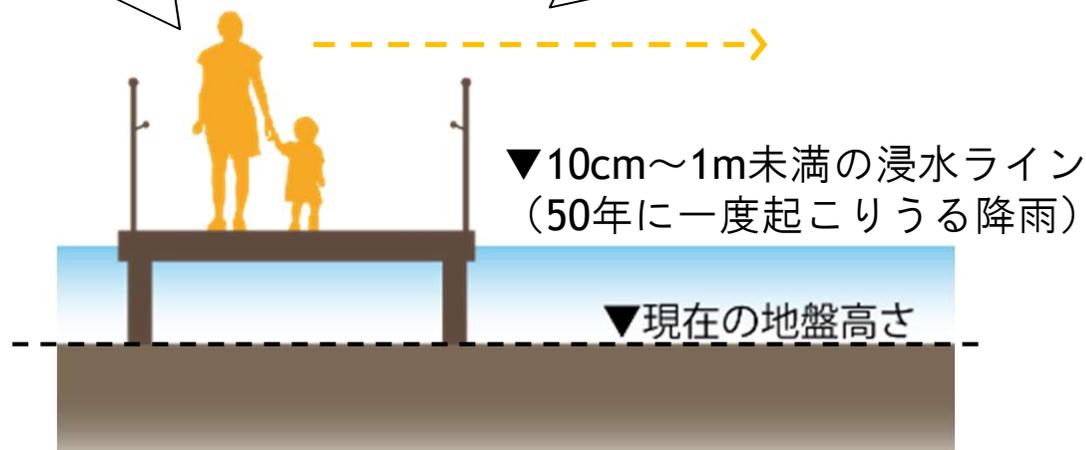
計画園路部分は50年に一度起こる降雨時に10cm～1m未満の浸水が想定されます
（浸水深さは場所によって異なる）。

2.安全性の確保（浸水対応）

計画園路部分は浸水しないように部分的に木道（ボードウォーク）を整備する等の対応を想定し、詳細は今後の設計にて検討します。

浸水しない高さの木道を整備し、計画園路をつくる

周辺よりも高い場所となり、眺望スポットとしても利用できる



【木道の整備イメージ】



写真出典／千葉県立北総花の丘公園HPより／
<https://www.seibu-la.co.jp/hokusou/facility/all.html>

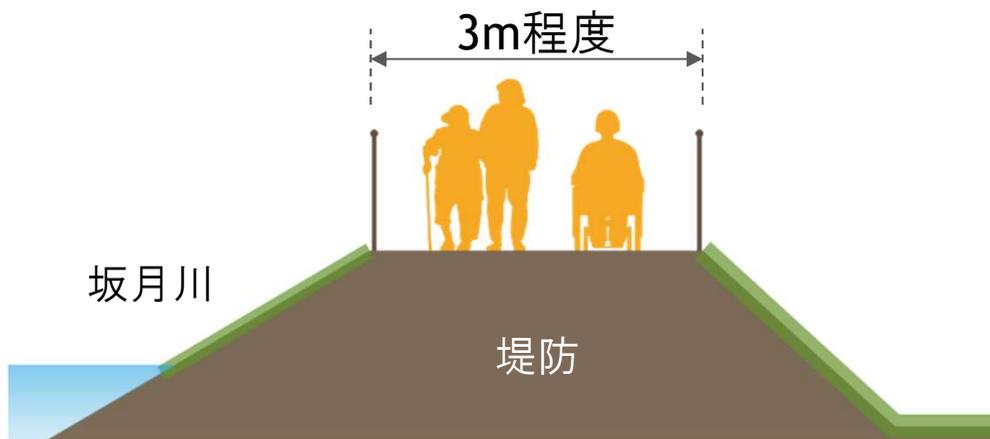


写真出典／鹿児島県観光サイトより／
<https://www.kagoshima-kankou.com/guide/53483>

3. 団体見学客の受け入れ

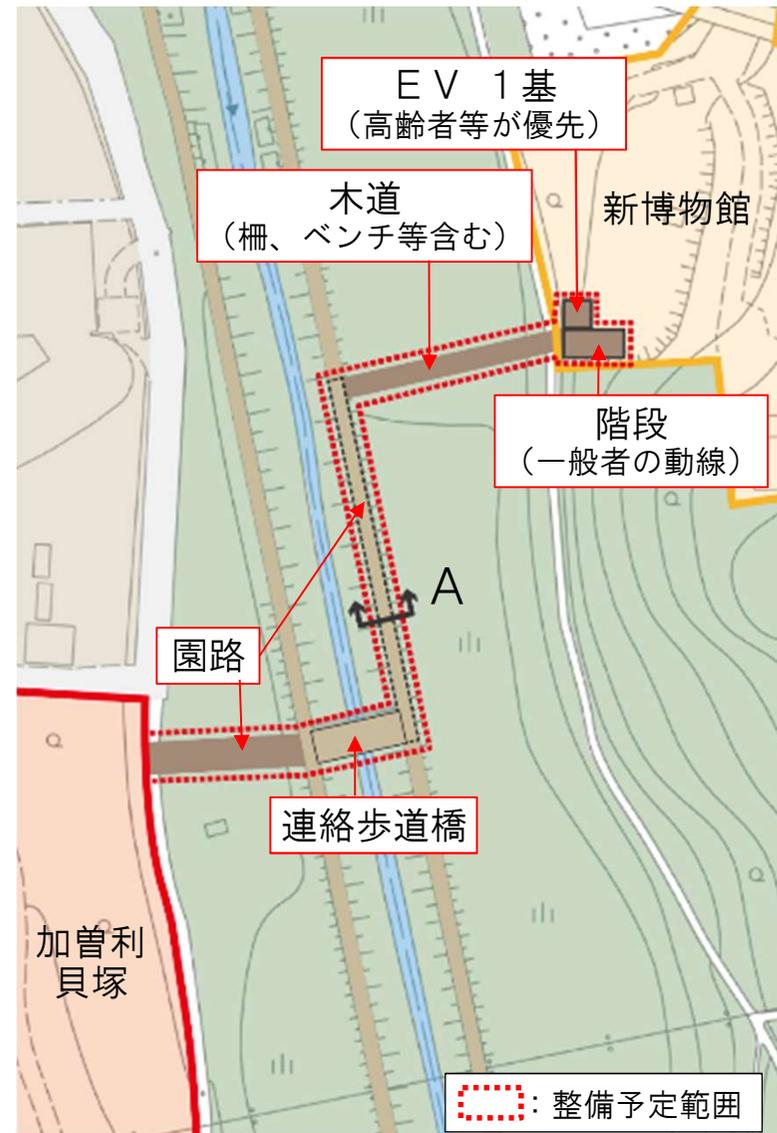
新博物館から史跡までの動線において、整備する内容を検討しました。

団体客の滞留を防ぐために、連絡歩道橋や木道、園路の幅員を3m程度、確保する予定です。



A部分断面イメージ

余裕をもって3列で通行することが可能であるため、滞留する可能性は低いと考えます。（分あたり120人程度が流動可能）



3. 団体見学客の受け入れ

見学ルート案：標準片道コース

所要時間：1時間25分

区間	所要時間
A-B	10分
B-C	25分
C-D	15分
D-E	30分
E-F	5分



※所要時間には新博物館の見学時間は含みません。 ※所要時間は参考であり、人数や対象者に応じて増減します。

3. 団体見学客の受け入れ

見学ルート案：標準片道コース

所要時間 1時間25分

区間	所要時間
A-B	5分
B-C	25分
C-D	15分
D-E	30分
E-F	10分



※所要時間には新博物館の見学時間は含みません。 ※所要時間は参考であり、人数や対象者に応じて増減します。

4.新博物館から史跡までの動線が長いこと

園路が長いことを利点と捉え、散策が楽しくなる工夫として、案内サインの事例等を収集・整理したため、この場所で行き組んでいきたいことについて、本日のワークショップでご意見をいただき、設計に反映していきます。

サインや設え の工夫

- ・ 間伐材を用いた散策路サイン
- ・ 音を楽しむ野外展示やベンチ等
- ・ 歩くことが楽しくなるサイン

アプリの導入

- ・ 学びや散策を促すアプリの開発と導入
(楽しみながら史跡を巡るためのアプリ)

移動を補完 する交通手段

- ・ 高齢者等の移動利便性を向上させる
シャトルバスの運行

4.新博物館から史跡までの動線が長いこと

整備事例のご紹介／間伐材を用いた散策路サイン

キコロの森散策路（静岡県三島市）

- 吊り橋（三島スカイウォーク）の整備に伴って造成された散策路。
- 日本全国から集まった間伐材から作られた森のキャラクターが散策路のあちこちに散りばめられている。



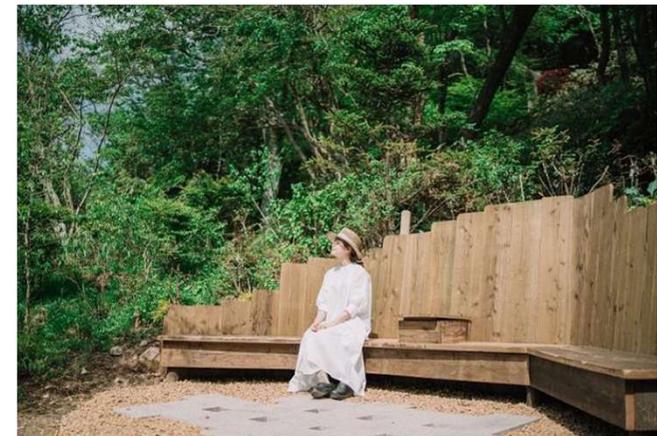
写真出典：三島スカイウォーク ホームページより／
<https://mishima-skywalk.jp/>

4.新博物館から史跡までの動線が長いこと

整備事例のご紹介／音と楽しむ散策路

SIKIガーデン～音の散策路～（兵庫県神戸市）

- 六甲オルゴールミュージアムからリニューアルする際に、六甲山の自然と調和を図る庭として整備したもの。
- 音にちなんだ野外展示のほか、座ると自動的に音楽が流れる「音のベンチ」等を整備している。



写真出典／ROKKO森の音ミュージアム ホームページより
／<https://www.rokkosan.com/museum/sikigarden/>

4.新博物館から史跡までの動線が長いこと

整備事例のご紹介／学びや散策を促すアプリの導入

Go！Go！しだみ古墳群（愛知県名古屋市）

- 古墳群を楽しみながら巡るためのスマートフォン・タブレット端末用アプリを開発し、主要な古墳の位置と解説を地図上に表示するとともに、古墳時代の風景や埋葬施設等をAR・VR機能で再現。
- 古墳に興味がない人にも楽しめたり、展示物とあわせて観覧してもらえることによって、より深く理解できる等の効果がある。



写真出典／先端技術による文化財活用ハンドブック（文化庁/地域文化創生本部）より

4.新博物館から史跡までの動線が長いこと

整備事例のご紹介／歩くことが楽しくなるサイン

WALK&HEALTH KASHIWA-NO-HA (千葉県柏市)

- 高架脇の歩行者専用道に変化を与え、楽しく歩けるしかけとしての路面サインを整備。
- 柏の葉をモチーフとした路面サインには、健康に関する情報が記載されており、健康への気づきを得ながら楽しんで歩くための工夫がされている。
- サインに記載されたQRコードを読み込むことで、より詳細な情報を得ることができる



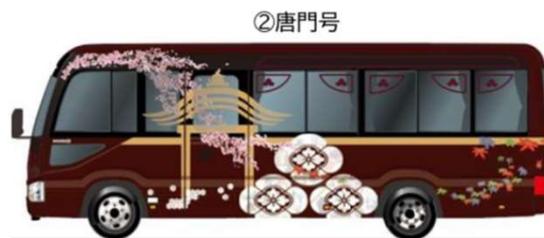
写真出典／身体活動を促すまちづくりデザインガイドより
／<https://hpd.cpm.s.chiba-u.jp/activeguide/keyword/131>

4.新博物館から史跡までの動線が長いこと

整備事例のご紹介／移動を補完する交通手段の導入

一乗谷朝倉氏遺跡広域周遊バス（福井県福井市）

- 復原街並と博物館を直接結ぶ周遊バス「唐門号」を運行し、高齢者等の移動利便性を向上させている。
- 直通便のほか、復原街並、博物館、道の駅等を周遊するバスも運行している。
- 土日祝運行、無料で利用できる。

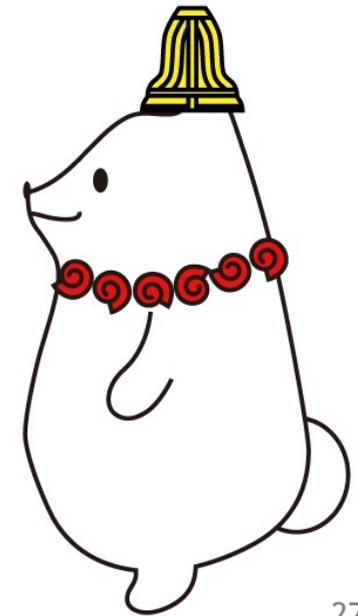


画像出典／一乗谷朝倉氏遺跡ポータルサイトより／https://ichijodani.com/go_around/archives/category/bicycle_rental



5. グループワーク

(新規ルートの設え・工夫点に
対する意見交換)



グループワークのテーマ

ルート案の説明および事例紹介



新設ルートの設え・工夫点に対する意見交換
(事例紹介を参考に、この場所
取り組んでみたいこと)

意見交換
の視点

景観

回遊・散策

団体対応
(見学コース)

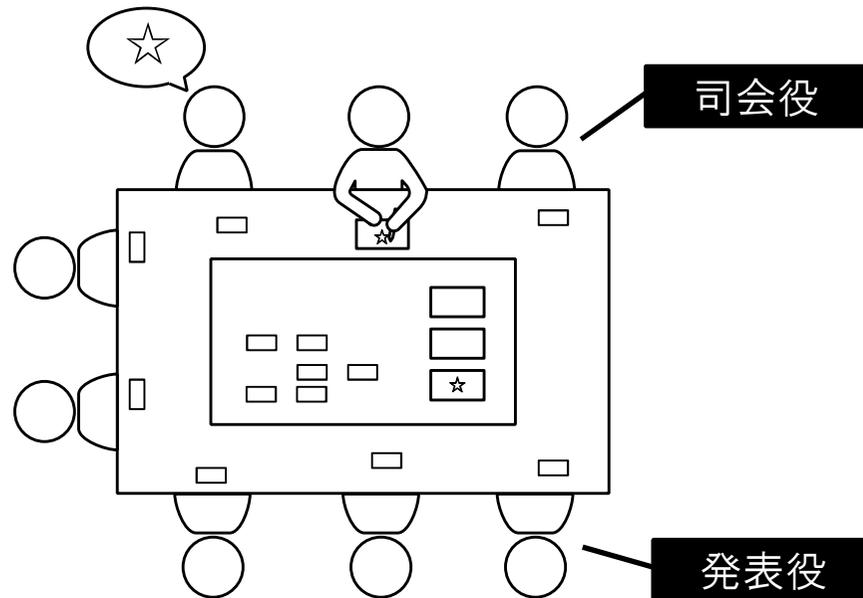
歩道橋および園路設計への反映 (次年度)

グループワークの進め方

1. A・B・Cの3グループに分かれる
2. テーマについて、配布資料を見ながら語り合う

※司会役がタイムマネージメントと司会進行をします。

※司会役が意見をグルーピングしたり、付箋に補足を書いたり、紙面を整理していきます。



役割	やること	分担
司会役	進行 グループのメンバーに順番に意見を聞く。 時間管理を行う。	OC
発表役	代表して発表する。	参加者から選出

グループワークのタイムテーブル

グループワーク

14 : 40 ~ 15 : 25

45分間

視点ごとに3色の付箋に書き分け

景観

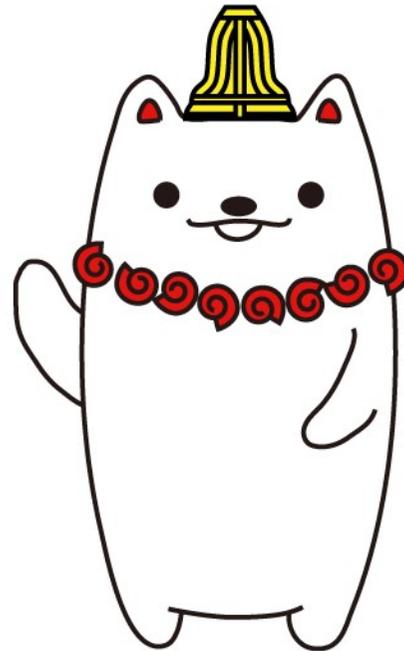
回遊・
散策

団体対応
(見学コース)

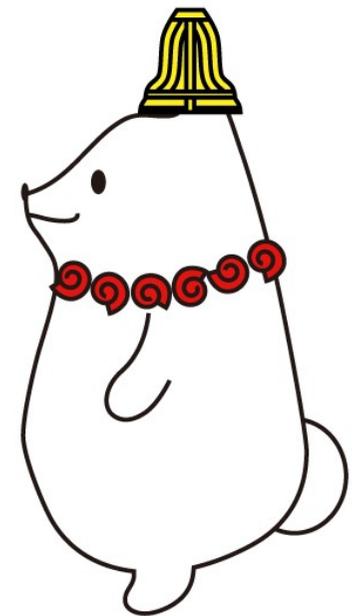
発表

15 : 25 ~ 15 : 40
15分間

6. まとめ



7. 今後のスケジュールの案内



今後のスケジュールのご案内

令和5年度は、歩道橋や園路の設計、設計のために必要な調査（地質調査、測量等）を実施していきます。

年度 項目	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
新 博物館	事業者選定	基本・実施設計		着工(令和8年4月頃) ▼ 躯体完成(令和8年12月) ▼	開館(令和10年秋)	開館準備
		解体・造成 (令和7年3月)	既存建物解体 土地造成	工事・引渡し		
ルート	地質調査 ・測量 予備設計	詳細設計		工事		

8. 閉会

